



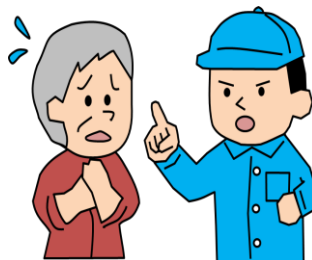
相談ファイル

(ここに紹介する相談事例は一つの参考例です。同じような商品・サービスに関するトラブルであっても、個々の契約等の状況などが異なれば、解決内容も違ってきます。)

自然災害に便乗した悪質商法に注意してください！

《相談内容》

自宅を訪問した業者から「壊れた屋根や雨桶を、火災保険で自然災害による破損として申請し、保険金が入ればその範囲内の費用で修理できる。」という説明を受け、少ない負担で修理できるのであればと思い契約した。その業者が作成した書類を使って保険会社に申請すると、後日保険金請求の手続きができるとのことだった。しかし、保険会社に確認したところ、修理する場合は保険会社があらかじめ指定した業者に依頼する必要があると言われたため、解約したい。



(70歳代 男性)

《アドバイス》

業者との契約書面にはキャンセルについての記載がなかったため、相談者から事業者へ解約の意思を伝えてもらい、無事解約することができました。また、念のためクーリング・オフの通知を出すことを勧め、書き方を助言しました。

「火災保険の保険金を使って工事ができる」という勧誘では、高額な手数料や解約料を請求されるトラブルが目立ちます。また、実際には起こっていない自然災害を装って申請をした場合、保険会社から相談者自身の責任を問われる可能性があります。虚偽の申請を求められた場合は、必ず断ってください。

～修理工事のトラブルに遭わないために～

- 1 修理工事の契約は、焦ってすぐに決めず、周囲の人と十分相談しましょう。
- 2 できるだけ複数の業者から見積もりをとり、十分に検討してから業者を決めましょう。
- 3 工事が不要であれば、きっぱりと断りましょう。

～善意につけ込んだ悪質商法にご注意～

平成30年7月の豪雨災害をうけて「被災者のために」という名目で、実態の不明な団体が義援金を求めたり、投資を呼びかけたりするトラブルが考えられます。寄付をする際は、その団体が確かな団体かどうかを確認しましょう。また、仕組みの分からない投資の勧誘には乗らないようにしましょう。

生活情報ファイル

災害時の子供の心のケア

災害に遭遇する等の強い恐怖や衝撃を受けた場合、特に子供は、身体の症状や普段とは違う行動の形でストレス症状が現れることがあります。これらの反応は正常な反応であり、時間とともに回復するのがほとんどですが、家族や周囲の人が理解を持って接することが大切です。

《子供に現れやすいストレス反応》

赤ちゃんがえり、機嫌が悪くなる、少しの刺激にもびっくりする、ボーっとする、食欲がなくなる、寝つきが悪くなる等

《日常生活で心がけたいこと》

- できるだけ子供を一人にせず、家族と一緒にいる時間を増やしましょう。
- できるだけ食事や睡眠等の生活リズムを崩さないようにしましょう。
- 行動に変化があっても、むやみに叱らず、受け止めてあげましょう。
- 子供が話すことは、否定せずに聞いてあげる姿勢を持ちましょう。

試してみよう、消費者力！第5回（平成30年度）

Q 住まいの防災対策について述べた文のうち、適切なものを選びなさい。

- 1 台風が来襲して雨漏りが発生した際は、後日の点検や補修のために、風の方向、雨の量を記録しておく。
- 2 初期消火の目安は火が室外に出るまでを目安にして、消火器などを用いて消火にあたる。
- 3 新耐震設計法の改正以前の全ての建物は、構造上の安全が担保されておらず、なんらかの耐震補強工事を必ずする義務がある。
- 4 地震後に停電している場合は、漏電遮断器・安全ブレーカーを「入」にして回復を待つ。

【第14回消費者力検定（平成29年度実施）応用コースから】

くらしのまめちしき

熱中症対策は万全に！

熱中症は、暑い季節には誰でもかかる危険性のあるものです。「自分は大丈夫」「このぐらいの暑さなら耐えられる」と油断せず、正しい予防方法を知り、普段から気を付ける習慣を付けましょう。

「暑さ指数」をご存知ですか？

「暑さ指数」とは、気温と湿度と輻射熱（ふくしゃねつ：地面や建物、体から出る熱）を組み合わせた指標です。気温だけよりも熱中症発生の目安となり、熱中症の予防情報はこの暑さ指数をもとにしたものです。この指数が28℃を超えると、熱中症のリスクが大幅に高まります。
※「暑さ指数」は「熱中症予防サイト（環境省）」<http://www.wbgt.env.go.jp/> で確認することができます。

外出の際に注意すること

- 日傘や帽子を利用して。直射日光を避けましょう。
- 飲み物を持ち歩くようにしましょう。のどの渇きがなくてもこまめに水分補給することが大切です。
- 公園の熱くなった遊具で子供がやけどをする事故が多発しています。公園等で子供を遊ばせる際は、気温の高い時間帯を避け、靴やサンダルを履かせましょう。
- 閉め切った車内では、冷房を切るとわずかな時間でも気温が上昇し、熱中症の危険性が高まります。少しの用事でも、子供を車内に置いて行かないようにしましょう。

室内でも注意が必要です

- 気温と湿度をこまめに確認しましょう。
- 無理な節電はせず、扇風機や冷房を使って室温を適度に下げましょう。
- こまめに換気をし、遮光カーテン、すだれ等を上手く使いましょう。

「試してみよう、消費者力！第5回」解答と解説⇒（正解－1）台風時には強い風雨が横から吹き上げ、思わぬ所から雨漏りが発生することがある。乾くと分からなくなる場合があり記録しておくとうい。初期消火はカーテンや天井に炎が及ぶまでが限界で、それ以前に刺激性のある臭いや煙を感じた際は直ちに避難する。新耐震設計法の改正以前の建物は、耐震診断を受けて補強が必要かどうかの確認をして、必要があれば補強する。電気が復旧した際、漏電や発熱することがあるので、漏電遮断器を落とし、すべてのコンセントからプラグを抜いて、停電に関する情報を収集する。

発行元：広島県生活センター（環境県民局 消費生活課）

〒730-8511 広島市中区基町10-52 県庁農林庁舎1階 TEL 082-513-2730

●●市（町）消費生活センター（受信先で御自由に変えていただいて構いません）

〒73X-XXXX ●●市（町） ●●市役所（町役場）○階 TEL 08XX-XXXX-XXXX